

2024年3月15日、国土交通省は、JR北海道の2024年度から2026年度における経営支援内容を決定の上、公表した。これは、2021年に改正した国鉄債務等処理法に基づく経営支援であり、大枠として10年間の経営支援を行うことを決定した中で、経営支援を受けるJR北海道・JR四国・JR貨物の中期経営計画期間に合わせて随時支援内容を定める形となっている。

JR北海道は、2021年度～2023年度に1,088億円の経営支援を受けているが、2024年からの3年でさらに1,092億円の支援を受けることが新たに決定した。JR北海道経営陣には、あらためて2031年度の経営自立を目指した舵取りが求められるが、黄線区と呼ばれる単独維持困難線区・8線区への対応のほか、北海道新幹線札幌延伸工事の遅れも指摘されるなど、相当に苦しい道内であることは間違いない。

～JR北海道への国の経営支援が決定～

JR総連・JR北海道労組というリスク(上)

そのような中、やはり気になるのはJR北海道内で組織率8割を占め、第一組合となっているJR北海道労組(北海道旅客鉄道労働組合)の存在だ。今やJR総連においても最大の労働組合になっている。

2011年「石勝線列車火災事故」や2013年「大沼駅構内貨物列車事故」により安全問題からJR北海道の経営に注目が集まり、その中で労使関係、とりわけJR北海道労組への革マル派の浸透が報道や国会で指摘された。政府見解としてもそれが事実として公表されている。例えば、川合孝典参議院議員が2018年2月15日に提出した質問主意書に対し、政府は同年2月23日閣議決定(安倍晋三内閣総理大臣)の答弁書で、「北海道旅客鉄道労働組合への革マル派の浸透実態については、現在、警察等において鋭意解明に努めている」と捜査当局がマークしていることを明らかにしている。同様に、2021年3月16日の内閣委員会において、和田政宗参議院議員が「JR北海道労組への革マル派の浸透実態」について問うと、政府(小此木八郎国家公安委員長)は「JR総連及びJR東労組内に革マル派活動家が影響力を行使し得る立場に相当浸透していると認識しています。JR北海道労組は、JR総連に加盟していることから、革マル派との関係について鋭意解明に努めているところであります」と答弁した。

JR連合を排除し、JR北海道内で自らの地位固めを行うJR北海道労組

2021年からの6年間で、計画段階のものも含めて、国から2,000億円以上の経営支援を受ける会社の第一組合が、革マル派との関係性が強く指摘され、捜査当局が調査しているという事実は大きな問題であり、労働組合は、会社とは別法人であるから関係ないとは言えないはず。ましてJR北海道は政府が全株式を保有する特殊会社である。

JR北海道労組は、“会社と「労使共同宣言」を結んでいるのは自分達だけ”、と日頃から「責任組合」としての自信を強調する。労組主催の公式的な行事には必ず経営幹部を招き、例えば定期大会には毎年JR北海道の社長が出席している。彼らが会社との深い関係をアピールするのは、2018年にJR東日本から「労使共同宣言」の失効を言い渡され、組合員が大量脱退し組織の瓦解を招いたJR東労組を反面教師として見ており、相当な警戒心があるからだろう。

他方、JR連合としては、「結成30周年記念式典」(2022年10月6日開催)に斉藤鉄夫国土交通大臣が出席するなど、責任ある政策活動や政治力などを通じて国からも高い信頼を得ていると自負するが、右の彼らの広報紙ではJR連合役員を「外人部隊」と呼び、「JR連合はJR北海道とは無関係であり、何の影響力もありません」などと侮辱する。嘘を並べ立ててJR連合とJR北労組をこき下ろし、新入社員とJR北労組との接触を断ち、絶対に加入させないよう仕向けるという「徹底的な排他的性質」を見せているのだ。

組織の瓦解に怯えるからこそ、JR北海道労組は自信に満ちたかのような強気の態度を採るのだろうか。最近の同労組の実態を、次号以降で紹介していきたい。



2023年度新入社員の皆さん 入社おめでとうございます

多くの期待と不安のなかで研修に励んでいることと思います。
安心してください。研修センター講師を含め、すべての職場ではJR総連・JR北海道労組所属の圧倒的多くの先輩がいます。業務の指導はもとより、ときには相談相手として、皆さんとともに働き、ともに遊び、ともに組合活動を通じて、より良い会社・職場をつくり、同時に組合員・家族の幸せを実現できると確信し、日々努力を重ねています。皆さんの加入と職場配属を心待ちにしています!

ところで...

入社式前日から、JR連合(本州会社の組合の人たち)・外人部隊が多く押し寄せ、皆さんへの接触を図ろうと悪あがきをしています。彼らは、JR北労組(圧倒的少数組合)の仲間で、JR北海道とは無関係であり、何の影響力もありません。JR北海道にはJR連合・JR北労組が多数派の職場は一つもありません。

ダメされないように、注意しましょう!!

一日でも早くJR北海道労組に加入し、先輩組合員はもとより、同期入社の仲間とともに、素晴らしい鉄道人生を歩んでいきましょう。

2023年度新入社員に、JR北海道労組が配付した広報紙